2009年5月10日

日本応用心理学会ニュースレター

――コミュニケーションの広場

No. 21

1. 新理事長就任のご挨拶

森下　高治（帝塚山大学）

風薫る5月、会員の皆様には各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、この度役員選挙で公選により第二代の理事長の重責を担うことになりました。前理事長の岡村一成先生は2期6年務められ、数々のご功績を残されましたが、これまで学会を築いてこられた諸先輩の先生方、現役員の皆様、会員の皆様のご支援のもと伝統のある学会をさらに発展させたいと考えております。学会と私とのかかわりの始まりは、私が大学院に入学した1968年からのことになります。そして、1987年には役員（当時は運営委員）になり今日に至っています。これまでの経験をもとに、新しい風を学会に吹き込むことができればと思います。微力ではありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、持論ですが学会の真価を問われるものは、機関誌「応用心理学研究」であるとかねてより考えています。岡村先生が方向性を示され藤田主一前編集委員長から所正文現委員長に受け継がれました。新体制では領域専門別責任者を選出し、スムーズな審査ができるようになりました。常日頃の活動、研鑽の成果を投稿によって社会にフィードバックしていただければと思います。

次に、大会について今年は九州大学の川本利恵子教授のもと、76回大会が開催されます。56回大会以来20年ぶりの九州での学会です。学会での「研究発表」、「応用心理学研究」への投稿は、若手研究者の登竜門として位置づけられますが、若手に限らず多くの会員の皆様が大いに挑戦していただくことで、研究を通して本学会の役割が一層高まり社会的責任を果たせると同時に社会に貢献できるものと確信いたします。

先月の第一回常任理事会では学会活性化プロジェクトチームを設置しました。このプロジェクトは若手研究者支援や学会をさらに強化するための広報活動、企画から短期的には新会員の加入促進のための

目　次

1. 新理事長就任のご挨拶
……森下高治（帝塚山大学）　1
2. 役員選挙結果のご報告
……選挙管理委員会委員長　浮谷秀一（東京富士大学）　2
3. 前理事長退任のご挨拶
……岡村一成（東京富士大学）　4
4. 研究室便り～2009年大会開催校・九州大学
……川本利恵子（九州大学）　5
5. 編集委員会からのお知らせ
……前委員長　藤田主一（日本体育大学）　5
6. 企画委員会からのお知らせ
……前委員長　内藤哲雄（信州大学）　7
7. 「応用心理士」資格認定委員会からのお知らせ
……前委員長　浮谷秀一（東京富士大学）　8
8. 事務局だより
……事務局長　浮谷秀一（東京富士大学）　8
9. 編集後記
……前広報委員長　所　正文（国士舘大学）　9

充実したホームページによる情報の提供、大学院生への直接的な誘いなど、長期的には認定応用心理士のさらなる発展を考えたいと思います。

また、若手研究者の多くの入会で、若年、壮年、高年の各層の方々が同じ年齢層の垣根を越えて、専門領域の垣根を低くすることにより学術交流が一層活発になるよう魅力ある学会づくりを目指したいと考えております。

ご承知のとおり、基礎（理論）心理学の応用としての応用心理学 (Applied Psychology) は心理学が細分化され、そのなかで学会組織がいくつも立ち上がりました。混沌とする今日の社会では、逆にさまざまな領域にまたがる応用心理学こそ、今求められている学問ではないかと思います。教育、医療、看護、産業、交通、社会、福祉の学際的な領域の結合こそが実践心理学 (Practical Psychology) としての応用心理学であると言えましょう。

来年は、4 年に一度の国際応用心理学会議 (ICAP) がメルボルンで開催されます。日本応用心理学会あげて参加の方針ですが、国際交流の内藤哲雄委員長をヘッドに蓮花一己前委員長、所正文委員、田中真介委員、坂元章委員を中心に取り組んでいますので、次代を担う若手研究者の皆さまも積極的に参加され、大いに力を発揮してもらえればと思います。

以上、理事長就任にあたって、私の考えの一端を述べご挨拶に代えさせていただきます。

2.　役員選挙結果のご報告

選挙管理委員会委員長　浮谷　秀一（東京富士大学）

2008 年 10 月から役員選挙が実施されました。

有権者（2008 年 9 月 25 日時点で 2007 年度までの年会費納入済会員および 2008 年度新入会員）は 893 名でした。まず、郵送による理事・監事選挙が 11 月に行われました。返信された有効投票数は 166 通でした。この選挙で新理事候補 24 名および新監事候補 2 名が選出されましたが、新理事候補と新監事候補それぞれ各 1 名が辞退され、次点者を補充して新理事 24 名と新監事 2 名が決まりました。次の手続きとして、平成 20 年 12 月 14 日（日）の常任理事会において現常任理事会の推薦による推薦新理事 12 名が決められ、最終的に新理事 36 名が決まりました。その後、2009 年 1 月から 2 月にかけて郵送による常任理事選挙が実施されました。常任理事就任辞退者が 2 名おりましたが新常任理事 15 名が決まりました。理事長選挙は、規程にもとづき 3 月 6 日（金）に理事長選出のための会議を招集し実施され、新常任理事 11 名（欠席者 4 名）の投票によって、森下高治氏が新理事長に決まりました。投票結果は、森下高治氏 7 票、内藤哲雄氏 3 票、谷口泰富氏 1 票でした。その席上で副理事長として藤田主一氏が指名され決まりました。また、事務局長として浮谷秀一氏が指名されました。

理事・監事結果

（敬称略、同投票数の場合は五十音順）

有権者数（投票用紙送付数）	893 通*
返信封筒総数	166 通
有効返信封筒数	160 通
無効返信投票数	6 通**

* 投票用紙 1 通は戻る。

** 外封筒記名なし 1 通、内封筒封せず 1 通、期限後着 4 通。

理事選挙投票数内訳		監事選挙投票数内訳	
投票総数	800 票	投票総数	160 票
有効投票数	723 票	有効投票	140 票
無効投票数	3 票	無効投票	1 票
白票数	74 票	白票	19 票

順	氏　名	得票数	開票結果	
1	藤田　主一	42	当選	承諾
2	浮谷　秀一	39	当選	承諾
3	木村　友昭	28	当選	承諾
4	森下　高治	25	当選	承諾
5	岡村　一成	24	当選	承諾
6	久我　隆一	20	当選	承諾
7	所　　正文	20	当選	承諾
8	大坊　郁夫	18	当選	承諾
9	荻野　七重	17	当選	承諾
10	内藤　哲雄	17	当選	承諾

11	松田　浩平	17	当選	承諾
12	蓮花　一己	17	当選	承諾
13	森脇　保彦	16	当選	承諾
14	田之内厚三	15	当選	承諾
	小野　浩一	14	当選	辞退
15	細江　達郎	14	当選	承諾
16	斎藤　　勇	13	当選	承諾
17	川本利恵子	12	当選	承諾
18	蜂谷　　真	12	当選	承諾
19	玉井　　寛	11	当選	承諾
20	藤森　立男	11	当選	承諾
21	井上　孝代	9	当選	承諾
22	谷口　泰富	9	当選	承諾
23	大渕　憲一	8	当選	承諾
24	向井　希宏	7	次点	承諾
	軽部　幸浩	7	次次点	

25	荒木　穂積	推薦	承諾
26	臼井伸之介	推薦	承諾
27	加藤　博己	推薦	承諾
28	桐生　正幸	推薦	承諾
29	田中　真介	推薦	承諾
30	松浦　常夫	推薦	承諾
31	太田　博雄	推薦	承諾
32	松下由美子	推薦	承諾
33	星　　薫	推薦	承諾
34	田中　佑子	推薦	承諾
35	内山伊知郎	推薦	承諾
36	深澤　伸幸	推薦	承諾

常任理事選挙結果

（敬称略、同投票数の場合は五十音順）

有権者数（投票用紙送付数）	36 通
返信封筒総数	34 通
有効返信封筒数	34 通
無効返信投票数	0 通

常任理事選挙投票数内訳	
投票総数	510 票
有効投票数	418 票
無効投票数	0 票
白票数	92 票

	氏　　名	得票数	開票結果	最終
1	藤田　主一	27	当選	承諾
2	浮谷　秀一	26	当選	承諾
3	蓮花　一己	25	当選	承諾
4	所　　正文	20	当選	承諾
5	内藤　哲雄	20	当選	承諾
6	向井　希宏	20	当選	承諾
	岡村　一成	19	当選	辞退
7	田之内厚三	19	当選	承諾
8	森下　高治	19	当選	承諾
	荻野　七重	18	当選	辞退
9	大坊　郁夫	17	当選	承諾
10	川本利恵子	16	当選	承諾
11	田中　真介	16	当選	承諾
12	藤森　立男	16	当選	承諾
13	井上　孝代	15	当選	承諾
14	玉井　　寛	15	次点	承諾
15	谷口　泰富	14	次次点	承諾
	松浦　常夫	13	次次次点	

理事長選挙結果

（敬称略、同投票数の場合は五十音順）

有権者数	15 票
投票総数	11 票

	氏　　名	得票数	開票結果	
1	森下　高治	7 票	当選	承諾
	内藤　哲雄	3 票	次点	
	谷口　泰富	1 票		

注：得票数が同数の場合には、役員選出・選挙規程に基づき抽選によって決定しました。

3.　理事長退任にあたって

前理事長：岡村　一成（東京富士大学）

2003 年 4 月から 2 期 6 年間にわたって理事長職を務めてまいりましたが、このたび任期満了により退任し、森下高治新理事長にバトンタッチをすることができました。この間、荻野七重副理事長はじめ、常任理事の先生方の強力なサポートと、会員の皆様のご支援、ご協力によって任期を全うすることができましたこと、ここに、心から感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。

本学会は、設立以来、会長は大会当番機関の代表者（大会準備委員長）がその任にあたっておりましたが、2002 年の総会で会則が改正され、理事長（旧会長）を 1 期 3 年とし、選挙によって選出する新制度が発足いたしました。その最初の理事長として私が選出され、その任に就かせていただきましたが、その責任の重大さを痛感しておりました。

任期中の活動を振り返って見ますと、たくさんのことが思い起こされますが、その一つに、本学会の復興 60 周年を記念して、丸善株式会社出版事業部から、日本応用心理学会編『応用心理学事典』を刊行したことです。本事典は、会員約 240 名にご執筆いただき、現代の応用心理学全般を眺望したもので、本学会の英知の結集となりました。藤田主一副編集委員長はじめ、編集委員（役員）の先生方の献身的なお力添えによって完成させることができました。ご執筆いただきました会員の皆様にも心からお礼申し上げます。

また、任期中に 6 回の大会を迎えることができました。いずれの大会においても充実した発表と興味深いシンポジウム・講演会、そして趣向を凝らされた懇親会など、印象深いものでした。ここに大会委員長のお名前を記し、大会運営にご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げる次第です。第 70 回 流通科学大学 森下高治先生、第 71 回 日本大学 嘉部和夫先生、第 72 回 福島学院大学 星野仁彦先生、第 73 回 文京学院大学 柏木惠子先生、第 74 回 帝塚山大学 蓮花一巳先生、第 75 回 横浜国立大学 藤森立男先生。有難うございました。

さらに、任期中の学会活動を振り返ってみますと、主なものとして、①機関誌『応用心理学研究』に従来の論文形態のほか「短報論文」と「実践報告」が追加され、投稿しやすくなりました。②若手研究者（大学院生・研究生）が大会発表や大会参加等をする場合、経済面で支援を受けられる制度を確立しました。③従来の「学会賞」と「奨励賞」を「学会賞」に 1 本化し、2 年に 1 回「論文部門」と「実践活動部門」について表彰することになりました。④本学会では国際交流の一環として、国際応用心理学会へ組織的に参加し、シンポジウムを開催、参加者に支援を行っていました。⑤年 1 回、東京地区で公開シンポジウムを開催してきましたが、昨年は地方（信州大学）開催をするなど、一般人へのアピールも工夫してきました。⑥そのほか、「応用心理士」の認定、新たに「終身会員」の制度の設定、ホームページの改良、会員への情報誌「ニュースレター」の作成・配布など、さまざまな活動が推進されて、学会の活性化を図ることができました。これもひとえに、常任理事の先生方を中心に役員の皆様のご尽力と、正会員、名誉会員、終身会員、賛助会員の皆様のご支援を賜ったことによるものであり、今ここに重ねて、御礼申し上げます。

また、縁の下で私を支えてくださった浮谷秀一事務局長と伊波和恵事務局幹事にもこころから感謝申し上げます。

今後は新理事長の森下高治先生のもとで、会員の皆様がさらなるご活躍をなされ、日本応用心理学会がますます充実し、発展されますよう祈念し、退任のご挨拶といたします。

4.　研究室便り～九州大学医学部保健学科

川本利恵子（九州大学）

九州大学医学部保健学科は、医学、人間科学など多方面にわたる学際的、領域横断的な知識・技術を統合・発展させた保健学とさまざまな社会的要請に対応できる保健学の教育・研究拠点形成を目指し、平成 15 年にそれまでの 3 年課程の短期大学から 4 年課程に発展的に改組されました。保健学は実社会でこそ生かされるものですが、いまだ発展途上の学問分野ですので、保健学の学問体系の確立、学際的かつ先駆的な研究の開発・推進、高い研究能力と指導力を有する人材が強く求められています。そこで、現代社会が求める医療を提供しうる教育者・研究者の人材育成を目指し、平成 19 年には保健学専攻博士前期課程を、平成 21 年度からは保健学における創造性豊かな優れた研究・開発能力を有する教育者・研究者の養成および保健学分野における研究マインドをもった実践的指導者や組織リーダー育成を目指し博士後期課程が設置されました。このように、九州大学医学部保健学科はこれからがスタートといった段階です。

その中で、われわれの研究室は看護学分野を担当しています。専門領域は臨床看護学ですが、急性期成人看護学と慢性期成人看護学と老人看護学の教育研究を行っています。先端医療を受けた患者さんの心の問題、慢性疾患患者の患者指導などの行動療法や援助的人間関係のあり方や認知症など、心理学に関する研究課題は尽きない状況です。平成 21 年度から開設されるがん専門看護師の育成に対しても重要な役割を担っています。このように医療現場において中核となる実践能力・指導能力・管理能力を併せ持つ研究者・指導者の育成を目指しています。

研究室のスタッフは、大黒柱であった外科医の退職に伴って循環器内科の医師である女性教授 1 名と看護の教授 2 名と講師 1 名と助教 3 名の 7 名の少数精鋭部隊です。大学院の開設に伴い本年度は計 11 名の大学院生が所属することになりました。今回の大会はこれらスタッフと大学院生が中心となって運営する予定ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5.　機関誌編集委員会からのお知らせ

前委員長：藤田　主一（日本体育大学）

(1)　機関誌編集委員会の新体制について

本年 4 月 1 日より、機関誌編集委員会が新たに発足いたしました。任期は、2012（平成 24）年 3 月 31 日までの 3 年間です。新編集委員会は以下のメンバーで編集作業を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。論文投稿についてのお問い合わせ、ご質問等は、機関誌編集事務局またはお近くの編集委員までお願いいたします。

委員長　所　正文（国士舘大学）
委　員　浮谷秀一（東京富士大学）

委　員　田中真介（京都大学）
委　員　井上孝代（明治学院大学）
委　員　川本利恵子（九州大学）
委　員　大坊郁夫（大阪大学）
委　員　向井希宏（中京大学）
委　員　荻野七恵（白梅学園短期大学）
委　員　細江達郎（岩手県立大学）
委　員　玉井　寛（福島学院大学）
委　員　松下由美子（山梨県立大学）
委　員　内藤哲雄（信州大学）
委　員　深澤伸幸（八戸大学）

(2) 新事務局について

今後、機関誌「応用心理学研究」へ論文投稿を予定している会員の皆様は、下記の「機関誌編集事務局」宛にお願いいたします。

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1
国士舘大学政経学部
所　正文研究室内
日本応用心理学会「機関誌編集」事務局
TEL: 03-5481-5426
E-mail: tokoro@kokushikan.ac.jp

(3) 論文投稿について

①機関誌「応用心理学研究」は、現在、年間 2 号（秋期号、春期号）を発行しています。機関誌は会員の皆様の投稿によって成り立っています。論文投稿は常時受け付けていますので、上記の「編集事務局」宛にふるって投稿してください。なお、おおよそ 4 月末ごろまでに投稿された場合は「秋期号」、10 月末ごろまでに投稿された場合は「春期号」に向けて審査（査読）が行われます。審査に時間がかかり、次号に先送りされることがありますので、投稿される場合はゆとりをもって早めにお願いいたします。機関誌「応用心理学研究」には邦文のほか英文投稿も可能です。投稿・執筆方法は邦文の規程に準じます。なお、英文投稿、英文アブストラクトは、投稿前にネイティヴ・チェックを受けておいてください。

投稿・執筆規程は、「応用心理学研究」の各号、ならびに本学会ホームページに掲載してありますので、どうぞ熟読してください。

②機関誌へ論文を投稿する場合、投稿時に著者全員が会員（正会員、名誉会員、終身会員）である必要があります。ただし、賛助会員、学生会員には投稿資格がありません。連名者の中に入会審査中の方が含まれている場合は、その旨を投稿時に申し出てください。入会手続き終了（正会員として登録）後、論文審査に入ります。非会員の方は、連名者になることはできません。

また、投稿論文の審査過程に関して、編集委員会から種々連絡しなければならないことがありますので、第一著者（投稿者）の方は、連絡先を明記してください。住所が大学宛や研究室宛だけの場合（大学の封筒に氏名だけ書くなど）、急な連絡を取れないことがあります。たとえば、夏休み、冬休み、春休みなどの期間中に審査結果を大学宛に送付した場合、著者の手元に届かないというトラブルが発生します。個人情報には十分留意しますので、第一著者の方は、自宅住所、電話番号（可能であれば携帯電話）、E-mail アドレスなどを明記してくださいますよう、お願いいたします。

③現在、「応用心理学研究」への論文投稿が非常に増えています。「原著」「資料」「総説」などへの投稿はもちろんですが、新設された「短報」への掲載希望が激増しています。「短報」は、機関誌見開き 2 ページの範囲内に、完結（簡潔）した 1 論文をまとめるものです。限られた紙幅を有効に使用することに間違いはありませんが、著者が 2 ページ分を目いっぱい使って文章・図表を割り当て、投稿してくる場合がほとんどです。一見すると 2 ページに収まっており、そのまま印刷すれば大丈夫かのように見えます。しかし、審査をパスし、印刷（初校）が戻ると、ほとんどの短報論文は 2 ページをはるかにオーバーしています。投稿時の文字数（邦文、英文、文字間隔）、レイアウト、図表の大きさ（図表を縮小して貼り付けている）などと、印刷時のそれとは決して同じにはなりません。その場合は、書き直しや削除をお願いすることになります。A4 判の大きさに収まるように投稿しても、印刷は B5 判に縮小されます。したがって、短報論文は、文字数や図表にかなりの余裕を持たせてまとめてください。すでに発行されている機関誌の「短報」欄を確認し、文字数や図表の大きさなどを参考にしてください。また、2007 年 11 月 5 日発行の本学会ニュースレター (No. 18) にも、「短報」「実践」に関する記事が掲載されていますので参照してください。

(4) 論文投稿に関する研修セミナーについて

本年 9 月 12 日（土）、13 日（日）に開催される日本応用心理学会第 76 回大会（九州大学；川本利恵子大会委員長）において、機関誌「応用心理学研究」への論文投稿に関する研修セミナーを企画しています。投稿・執筆の方法、審査（査読）の基準、編集の方針など、投稿から審査、採択、掲載に至るまでの諸問題について情報提供する研修会です。これから投稿を考えている方、再投稿を予定している方、残念ながら過去に不採択通知を受け取ってしまった方など、多くの会員の方に参加いただきたいと思います。質疑応答や個別の相談などにも応じられるようにします。研修セミナーは編集委員会が担当します。詳しくは、後日発行される大会プログラムを参照してください。

6. 企画委員会からのお知らせ

前委員長　内藤　哲雄（信州大学）

企画委員会の主要業務は、公開シンポジウムの開催と大会時の研修企画です。最初に公開シンポジウムについて、次に本年 9 月 12･13 日に開催される第 76 回大会での研修予定について報告します。

〈公開シンポジウム〉

2008 年度の公開シンポジウムは、下記のように、昨年 12 月 14 日に初めて地方で開催されました。会場は長野県松本市にある信州大学人文学部で、信州産学官連携機構の後援、信州大学人文学部、長野大学社会福祉学部、松本大学総合経営学部、信州大学産学連携推進本部の共催で、テーマは「地域の高齢化と再活性化」でした。現在、地方の農山村では人口の過半数が 65 歳以上である「限界集落」がいくつも見られます。限界集落を超えると「超限界集落」から「消滅集落」へと向かうとされています。過半数が 55 歳以上の集落は「準限界集落」と呼ばれています。実は、限界集落ほどではないのですが、大都市でも 65 歳以上の人口が 30%を超える地域が少なからず存在しています。例えば、東京の新宿百人町や高島平がそうです。都市部と農山村部での地区の高齢化の原因と実施可能な対策の違い、施設における高齢者介護の実態、大都市から地方への介護移住（国民保険等は都市部のまま地方の施設に入所）についての話題提供を受け、老人介護の問題と農山村部での地域活性化について指定討論者からコメント、会場参加者からの質疑と話題提供者らからの応答がありました。シンポジウムの内容は、応用心理学研究に掲載されます。

公開シンポジウム：地域の高齢化と再活性化

日　　時

2008 年 12 月 14 日（日）

午後 1 時～午後 4 時 20 分

会　　場

信州大学人文学部　会議室（人文学部・経済学部共通棟 6 階）

企　　画

内藤哲雄（信州大学人文学部教授・応用心理学会常任理事）

司　　会

向井希宏（中京大学心理学部教授・応用心理学会常任理事）

中嶋聞多（信州大学人文学部教授・信州大学産学官連携推進本部–地域ブランド分野長）

話題提供者

内藤哲雄

農山村地域と都市部における高齢化問題について

清水健司（信州大学人文学部講師）

老人介護について（施設における臨床事例を中心に）

栗田明良（長野大学社会福祉学部教授）

介護移住、地域密着型サービスの展開について

指定討論者

林　靖人（信州大学産学官連携推進本部–地域ブランド分野研究員）

尻無浜博幸（松本大学総合経営学部准教授）

大橋信夫（日本福祉大学名誉教授・労働科学研究所研究員・応用心理学会常任理事）

主　　催

日本応用心理学会

共　　催

信州大学人文学部、長野大学社会福祉学部、松本大学総合経営学部、信州大学産学官連携推進本部(SILO)

後　　援
信州産学官連携機構 (SIS)

〈第 76 回大会時研修〉

大会時には、委員会の企画により研修が実施されます。本年 9 月 12･13 日に開催される第 76 回大会（九州大学）では、[1 日目] 研修会 A:［講師］大村政男（日本大学名誉教授）/［司会］藤田主一（日本体育大学教授）「応用心理学研究における統計処理の諸問題」と、[2 日目] 研修会 B:［講師］田之内厚三先生（麻布大学教授）/［司会］藤森立男（横浜国立大学教授）「災害救助者の惨事ストレス対策」の二つを予定しております。

7. 「応用心理士」認定審査委員会からのお知らせ

委員長：浮谷　秀一（東京富士大学）

平成 20 年度後期の申請者 2 名について資格認定審査を行った結果、以下の 2 名の方を認定しました。

268　三島　重顕
269　矢野　伸裕

平成 21 年度前期分の資格申請の受付期間は、4 月 1 日から 5 月末までですが、6 月末まで延長いたします。資格要件を有していて、まだ資格申請をされていない会員の方は、申請をお願いいたします。

資格申請書類のご請求および資格申請手続きに関するお問い合わせは、ハガキかメールにて下記にお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-1
東京富士大学応用心理学研究室内
日本応用心理学会認定「応用心理士」事務局
E-mail: ukiya@fuji.email.ne.jp

8. 事務局だより

事務局長：浮谷　秀一（東京富士大学）

会員異動

2008 年度末（平成 20 年度末）の会員数は下記のとおりです。

正会員	1,079 名
学生会員	3 名
名誉会員	40 名
終身会員	38 名
賛助会員	5 名
合計	1,165 名

下記の方の住所が不明です。心当たりのある方は事務局までご連絡をお願いいたします。
学会事務局　Tel: 03-5389-6491
E-mail: jaap-post@bunken.co.jp

賛助会員
社会環境研究所
正会員
杉浦愛、マルコン･オットー、安川雅史、伊藤朋子、雨宮一洋、岡村千鶴、下方友子、河野雄二、鑑さやか、岩本彩子、吉田恒彦、近藤千尋、熊倉朋子、熊谷陽子、月野木竜也、古川ひとみ、高橋　晃、高見理恵子、高田智子、佐久間直也、佐伯勝幸、山崎麻里、若山英央、出水真寿美、小林桂子、松井真樹、松坂まり子、新藤美香、青木玲子、斉藤早香枝、竹中桂子、中里　茂、鳥山絵美、椿堂由紀、田辺　勝、渡部桂子、土谷　望、藤生英行、南篠充寿、冨重健一、布施晶子、武田繁好、武田　弓、服部志、片岡健二、野村昌史、劉　　莉、鈴木祐子、蓮見知恵子、楡　木子、薛　常慧、閣　　喜

編集後記

桜の季節もほぼ終わり、風薫る新緑の美しい時節となりました。会員の皆さまにおかれましては年度初めの慌ただしさもやっと落ち着き、物事が軌道に乗り始めた頃ではないかと存じます。

われわれの学会もこの春に理事長が交代し、学会執行部は一新いたしました。6 年の長きにわたって理事長を務められ、学会発展のためにさまざまな面で多大なる貢献をされた岡村一成先生には心から感謝申し上げたいと存じます。温厚なお人柄で組織を円滑にまとめられ、数々の改革を実現されました。とりわけ、本学会の復興 60 周年記念事業として行われた応用心理学事典の発行では、その手腕を大いに発揮されました。

後任理事長には森下高治先生が就任されました。森下先生には、わが学会のさらなる発展のためにお導き下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。本号冒頭のご挨拶の中で述べられている「心理学の各論がそれぞれ独立学会を立ち上げている今、さまざまな領域にまたがる応用心理学こそ、今求められている学問であり、学際的な領域の結合こそが実践心理学としての応用心理学である」とのご指摘は、応用心理学の研究者が再認識すべき重要フレーズであると拝察いたした次第です。こうした問題意識をもって、われわれは研究に取り組んでいく必要があり、とりわけ若い研究者の方々へは、応用心理学研究を通して、幅広い視野や教養を備え、柔軟で豊かな発想力を身につけていくことを望みたいです。

われわれ広報委員会が担当いたします本誌の編集発行は、本号をもって終わることになります。次号からは、新体制下の広報委員会が担当することになります。3 年にわたってお読みくださり、ありがとうございました。

（所　正文）

発行　広報委員会
委員長　所　正文
日本応用心理学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
(株)国際文献印刷社内
電話 03-5389-6491　FAX 03-3368-2822